

令和5年11月24日
(2023年)

家庭数

保護者の皆さまへ

千里みらい夢学園
吹田市立千里たけみ小学校
校長 今枝 かおり

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析について

落葉の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃より本校の教育にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、今年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、既に個人の結果をお返し、その結果から本校の6年生における分析をいたしましたので、簡単ではございますが報告いたします。

本調査は小学校の最終学年を対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを前提として、本調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に向けて具体的な取組を進めることが、本調査のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として学力向上につながる指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 国語に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

話すこと・聞くこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

書くこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

読むこと

・全ての設問において、全国の正答率を上回る結果でした。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い結果となっており、良好な結果となっています。

話すこと・聞くこと

全国値を上回る結果でした。しかし、聞き取った内容から話すように書く設問に対して無回答の児童が数名いました。また、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があります。話すこと・聞くこと分野であっても、意見や考えを文章に書き表す指導に努めていきます。

書くこと

全国値を上回る結果でした。特に、全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができます。一方で、問題文がページをまたいだ設問に弱さがみられたり、わかったことをもとに自分の考えをまとめる問題など、字数制限のあるものに苦手意識が見られました。また、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることにも課題があるので、書いた文章を互いに読みあったり、自分が書いた文章を読み直したり、推敲する時間を増やしていきます。

読むこと

全国値を上回る結果でした。中心になる語や文を見つけ、内容を読み取ることができています。これは全ての学年において読書活動に進んで取り組んでいる成果であると分析します。様々な種類の本に多く触れることができるよう、引き続き環境整備や指導を進めていきます。授業内でも、物語の主題や、情景描写など取り上げたいと思います。

2. 算数に関する調査の分析

(1) 全体の結果 全国の平均正答率を上回り、良好な結果でした。

(2) 各領域における結果

数と計算

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でした。

図形

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でしたが、いくつかの設問で他の問題に比べ、低い正答率のものもありました。

変化と関係

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でした。

データの活用

- すべての設問において全国の正答率を上回る結果でした。

(3) 算数科における成果と今後の改善点について

学年全体の正答数分布は、全国の分布状況と比べて、低位層が少なく、高位層が多い結果となっています。基礎的問題については授業内容や宿題、応用的問題については昨年度までプリントを使い、学校全体での取り組みを継続的に行ってきたことにより、成果が出ていると考えられます。

しかし、全国平均値に近い値ではあるものの、「図形」領域に課題があります。また、理由を説明するような記述式の設問では、他の選択式や短答式に比べ正答率は高いものの無解答率が高く、低位層の文章力に課題があります。以下に、課題およびその改善点について記載します。

数と計算

全国値を上回る結果となっています。これからも授業において、計算をする前に「計算の見積もりをしよう」などの声掛けによって、計算ミスを減らし、見積もる力を育てていきます。

図形

①「正方形の意味や性質について理解しているかどうかを見る」②「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか」という設問において、正答率が①57.9%②45.6%と低値でした。これは、図形の性質の定着に課題があるためです。今後はこの課題の克服に向け、ICTや具体物をこれまで以上に活用し図形の性質や意味に着目するような課題設定をすることで、課題克服を目指します。

変化と関係

全国値を上回る結果となっています。これからも継続して、児童の理解を促す取り組みを行っていきます。また、今回の問題文では、読んでその状況を精査せずに、直感で解答してしまうことによる誤答も多くみられました。問題文に対する読解力を育てるために、しっかりと問題文を読みこみ、状況を把握することが求められます。授業においては、子どもたちが正確に読まないといけない問題文を提示するなどの工夫をして、力をつけていきます。

データの活用

全国値を上回る結果でした。日常生活場面でのデータを表に分類整理したり、考察したりすることができています。これからも他教科との関連を深めながら、資料を読み取り、データを活用する学習を児童の生活と結びつけながら進めていきます。

4. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1) 学習環境・生活環境等について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友だち関係に満足していますか」の質問での肯定的回答は全国値を上回っています。今後も学校が子どもたちにとって安心安全な場所となるよう、よりよい集団作りをすすめていきます。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の2つの質問での肯定的回答は全国値を下回っています。学校とご家庭で協力して、自己肯定感や自尊心をさらに高めていけるよう、子どもたちを見守っていきます。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問での肯定的回答は全国値を上回っています。いじめは許されない行為であることを考える授業や取り組みを、今後も継続して進めていきます。

(2) 教科・学習について

- 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の2つの質問での肯定的回答は全国値を下回っています。まとめや振り返りの時間を大切に、その後の学習や日常生活につなげていける授業作りに取り組んでいきます。
- 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問での肯定的回答は全国値を上回っています。今後も、友達の意見を聞きあう場の設定を行い、自分の考えと向き合い、それを表現することができるよう、様々な教育活動の中で取り組んでいきます。

5. 今後の取組み

「学力調査」においては、国語・算数のほとんどの設問において全国数値を上回っており、日頃の学習や取組みの積み重ねが成果として表れていると考えます。

一方で「学習状況調査」においては、各教科に関連して必要な情報を選択することに課題が見られたので、授業の中で取り組む機会を増やしていきます。今後も各教科の基礎基本の定着を図るとともに、児童が授業を通して何ができるようになったのか、自らの成長を実感できるような授業づくりをしていきます。

また、児童が主体的に学びに向かうために、児童自ら問いを持ち、その問いの解決に向けて自ら進んで学習をしていけるように工夫していきます。さらに、児童同士が考えを伝え合い、学び合う授業の構築を進めていき、少人数指導・TTなどの学習形態の工夫やICT機器の効果的な活用を行うことで、「個別最適な学び」「協働的な学び」につながる学習指導を継続して実施していきます。

今後も児童一人ひとりの良さを生かしながら、保護者・地域の方々と協力する中で、教育実践に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。